

6月4日(木) 分数

小学校の高学年だったと思う。算数で分数のかけ算と割り算を習ったとき、私は衝撃を受けた。先生は「分数のかけ算は分子同士と分母同士をかけて、割り算は逆数をかけると答えが出ます」と言った。なるほど言われるとおりにすると答えは出る。しかし、どうしても納得がいかない。それまでの私の常識は「数字はかけると増えて、割ると減る」というものだったから。何を根拠にそんな計算の法則ができたのか、納得のいく説明を誰もしてくれなかった。途端に勉強が嫌いになった。

中学でも高校でも、この「分数」に限らず、私は様々な「不思議」を胸に抱いていた。けれどもその「不思議」に納得いく答えを示してくれる先生はいなかった。中には「理屈はいから覚えろ」とのたまう先生までいた。

大学に入って塾のアルバイトを始めた。普段は中学生相手の仕事だったが、夏休みに小学生の算数を担当することになった。なんと分数のかけ算割り算が範囲である。これには焦った。自分が納得のいかないものを教えるわけにはいかない。かといって今更誰にも訊けない。途方に暮れていたとき、テレビの子ども向け番組でかけ算の説明をしているのが目に入った。「2のかたまりが2つあるといくつになる」「そう4だね。これを式であらわすと $2 \times 2 = 4$ 」……これだ。私は単純に「かけると増える」と思い込んでいたのだが、「かけるというのはそのかたまりがいくつあるか」ということなのだ。「 $2 \times 1 / 2 = 1$ になるのは、2のかたまりが $1 / 2$ 、つまり半分になったらいくつになるかって事。割り算で $2 \div 1 / 2 = 4$ になるのも、2を $1 / 2$ ずつのかたまりに分けるといくつになるかということなのだ」

私は、自分と同じように、本質的な理解をせずに表層だけで答えを導き出している子どもがたくさんいるのではないか。そして実は納得のいく答えを持たない子どもがたくさんいるのではないか、とこのとき思った。

